

神奈川、大分をはじめ県単補助拡充の確信と父母共同の前進 '17年度運動の到達点を確認し今年の運動に向け元気の出る会議に!! 2018年度 公費助成対策・父母共同担当者会議

4月21~21日東京麹町の全国教育文化会館中会議室を会場に、2018年度の「公費助成対策・父母共同担当者会議」が開催されました。全国27都道府県から父母4都県5名を含め54名が参加し、2017年度の私学助成運動の到達点と2018年度の運動の争点について熱い討論が交わされました。

'17年度の運動で作り出した大きな変化を全国のうねりにしよう 永島委員長あいさつ

冒頭、永島委員長は開会あいさつで「20年ぶりに県単位の父母組織が広島で立ち上がる。父母共同の再生が全国で動き始めている。全国の9都県で制度改善が進んだ。中でも神奈川と大分での授業料無償の前進が大きい。神奈川では予算が通った直後県内全中学生にチラシが配られた。大分の改善は学校が取り組むモノとしていた授業料軽減を県の役割と転換する改善だった。こうした大きな変化の中で2018年度をスタートさせる。3/25自民党大会で明らかになった改憲案には『教育の無償化』の語は消え、89条改憲案では『公の監督の及ばない』と統制を強める内容になっている。こうした動きに負けずに、9都県の改善を全国に広める議論を」と運動の到達点にたって2018年の展望を述べました。

'17年度の教訓を基に、都道府県制度の改善で「新しい経済政策パッケージ」の前倒し実施を 基調提案

つづいて山口書記長から基調が提案されました。500万筆を超える全国署名、3回の院内集会、8政党+無所属226名の紹介議員獲得、15都道府県17のフェス・つどい開催、全国高校生国会議員要請、父母共同前進の萌芽など2017年度の運動の前進面を確認。漸減傾向を脱しなかった私学助成全国署名も、増加、維持させた県の教訓を取り上げ、具体的な総括の必要と学習会の運動化、父母共同、高校生の参加が私学助成全国署名の質的転換を生むと確認。改善案をもって自治体に迫り「新しい経済政策パッケージ」の前倒しを国に実行させる方針が提案されました。当面春は、署名運動の主体者を増やすための学習会の開催と父母共同への踏み出し、学費実態と父母の声をつかむ「経済的理由による退学調査」400校分と「要請はがき運動」に注力する事が提案されました。

制度改善の背景に粘り強い取り組みアリ レポート 第1部

大分：広光さんは「新聞報道で知って驚いた」と言いながら、県の財政健全化政策がすすみその中で県が力を入れたい分野に私学教育と父母負担軽減が挙げられていたことを直接的要因としつつ、やはりブロックキャラバンで訴え続けた事、地元の議員が他県との比較でこの問題を機にしていたことが力になったと報告しました。

岩手：工藤さんは、「県単補助が無い事を指摘されるが苦痛だった」と述べつつ、岩手の取り組みを報告しました。6月の単組代表者会議で全加盟校で署名に関わって「やったこと、やらなかったこと」を出し合う事で、署名運動の動きを変えた事、はがき提出での加盟校PTA役員参加、ブロックキャラバンで他県から指摘してもらい、試算を提示したことなど、「やれる事全てに取り組んで県単復活を実現した。次はネコババさせない事だ」と述べました。

新潟：宮腰さんは、「新知事誕生が好機だったのですが、その知事が…」と苦笑とともに情勢に触れつつ報告をスタート。市民連合で選んだ知事に直接要請をという事で秋の署名も知事宛に変更し直接手渡しました。こうした運動の中で入学金補助の増額を勝ち取りました。知事提出の機会をつくったのも、学校の署名担当を叱咤してくださったのも父母の力と、私学助成運動の本質を語りました。

神奈川：長谷川さんは、フェスを外で開催する事をスタートに東京の拡充の流れを引き込む戦略として、スプリングフェス開催、ブロックキャラバン、全国父母懇、秋のフェス、議員要請とできること全てに取り組み、見える運動を展開したことが私学振興課を支援することになり、国の情勢とリンクし知事を判断させた、と運動を振り返り、「チャンスはいつか来る。そのために運動の継続が必要」と報告をまとめました。



主体者・共同を拓けるには戦略アリ レポート第2部

兵庫：友井さんは、署名数漸減を断ち切るために手を打とうと、県での学習会の再開に踏み出した事が契機となった動きを報告しました。県すすめる会学習会にベテランが青年を誘い、その青年が私学助成について理解し、「この話は学園の教員全員が聴かなければだめだ」と校長に直談判し、学園での校務の学習会を開催。その結果、学園の署名数が1.5倍加したという報告で、「小さな一歩かもしれないが、次につながる動きをつくれた」と報告をまとめました。同時に制度の改善も報告されました。

青森：堀内さんは、学習会の開催、生徒参加などにも力を入れ、署名数を維持してきながら県内政治地図により、採択されない状況の打破をめざす取り組みを報告しました。公明党県議団長の「そでてる会」へのアプローチを契機に、多数派自民党を変えさせる取り組みです。共産党の紹介をはずすために陳情に変更。これまで紹介議員となってきた共産党議員団は「子どもたちのために議会で通ることが一番。私たちは議会で賛成するから」とこの戦略を応援、この対応に答えるためにも運動を前進させる決意とともに報告しました。青森の取り組みには、「特定政党排除の動きに与するのは如何なモノか」という意見も出され、戦略をもった取り組みと政党との距離の取り方について議論となりました。

運動の前進に父母との共同あり レポート第3部

熊本：父母尾崎さんは「子どもが自主活動に参加し、その成長の姿を見、話を聴く中で父母懇に参加した」と述べられ、森さんは「Winter セミナー熊本大会に参加し、子どもたちのために熱心に授業研究する先生方の姿に打たれ参加した」と活動参加の動機を述べられました。長峰さんは落ち込んだ署名を再生させるには父母とつながる事だと踏み出した熱意が語られました。

福岡：佐藤さんは、全国父母懇開催を機に福岡の運動を再生させる決意と戦略を報告しました。全国父母懇開催に踏み出せたのは、街頭署名やすずめる会運動など継続している取り組みがあったからだとしながら、「やればできる子=つまりやっていなかった」を全国父母懇開催を契機に変えていく決意を報告しました。

石川：中曾さんは、石川の私学助成運動の歴史を振り返りながら、学内配布禁止の攻撃などの逆境を反転させる契機として「すすめる会」の再生に踏み出し、新たな会長から提示された「現役父母の参加」に自ら踏み出した事を報告しました。ブロックキャラバン、全国父母懇に参加した現役父母が運動の重要性を確信し、新たな父母に声をかけてくださった事など、再生の兆しが語られました。

2018年度の運動に展望あり レポート第4部

広島：父母磯元さんが中心となって小林さんとともに、広島父母懇結成の動きを報告しました。2014年の愛知での全国父母懇が大きな衝撃となり、帰りの新幹線で同行された父母と未来を熱く語り合った事を出発点に、自校のPTAの活性化、父母懇の立ち上げまで戦略を持って取り組んで来られたことが語られました。

関東ブロック：増田さんは、埼玉、東京と続いた無償化の前進が、茨城の入学金補助拡充、神奈川と拓がった動きを、千葉、栃木、長野へどう拓げるか、ブロックキャラバンを軸に、ブロックとしてのつながりを強めて展開していく展望を報告しました。

